

想定外を想定内にしていくために

北進ゼミナール

日本全国には京都市以外に「小京都」と呼ばれる街が40以上も存在している。古い街並みが残り、風情が京都に似ているというのが由来だ。熊本県南部山間部に位置し、市街の中心を東西に球磨川が流れている人吉市もその一つである。

今年7月上旬、人吉市は記録的な大雨に襲われた。「令和2年7月豪雨」である。発達した雨雲が列となって通過する線状降水帯が発生し、降り続く猛烈な雨が球磨川を氾濫させたのだ。濁流は堤防を越えるだけに留まらず、それが川に戻ろうとする勢いで堤防自体を決壊させてしまった。その結果、人吉の市街が広範囲で浸水してしまうという甚大な被害をもたらしている。内閣府の「令和2年7月豪雨被害状況等について」によると、人吉市だけで20名の方が亡くなり3700棟以上の家屋が床上浸水したとのことだ。資料Ⅰの通りまさに大惨事である。

歴史を紐解けば、日本は全国各地の河川で幾度となく大洪水に見舞われていることが分かる。先人はその都度、教訓を活かして河川整備を行ってきた。球磨川も日本三大急流の一つに数えられるくらい流れが急な河川である。実際、昭和40年(1965年)7月の洪水では1200戸以上の家屋が損壊したり流出したりするという、球磨川流域で戦後最大となる被害が発生している。そして、その時の大洪水を基準に堤防の設置や河道拡幅等の対策が取られてきた。しかし、今回の降水量はその想定を大きく上回った。資料Ⅱは人吉市の1965年・2020年・平年(1981年～2010年の平均)の7月上旬の日別降水量を表している。これを見ればデータの的に想定外の災害であったことが読み取れるだろう。

ところで、この「想定外」という言葉はあちこちで使われている。現在のコロナ禍もそうだ。中国武漢での感染が新聞で初めて報じられた今年1月時点で、2020東京オリンピックが1年延期されたり、ゴールデンウィークの昼間なのに渋谷のスクランブル交差点の人影がまばらになってしまったり、数ヶ月間も学校が休校になったりするような事態は、ほとんどの人にとって想定外だったのではないか。さらに今、想定外の余波は人吉市周辺の被災地支援にも及んできている。大災害が発生すると普段なら全国からボランティアを募るのだが、今回は感染拡大防止のためにボランティア募集を熊本県在住者限定としているので人手の確保が難航しているのだ。

想定外を完全になくすことは難しい。想定が増えれば増えるほど対策の負荷や費用も膨れ上がっていくからだ。それゆえ、その時点で合理的と思える対策を立てて納得しているのが現実だ。そうである以上、想定外のことは今後も発生するだろう。大切なのは、そういった事態が発生した場合にそれを新たな想定に組み込んで対策を立て直していくことである。これは社会的なできごとでも個人的なできごとでも同じだ。

私たちの日常生活でも小さな想定外はいくつも発生している。例えば「想定外の二度寝で遅刻した」「1時間程度の宿題と思っていたが想定外に時間がかかった」といった経験がある人も多いだろう。これを機に一人ひとりの人生経験の中で発生した想定外の苦い体験をもう一度見つめ直してみてもどうだろうか。そうやって「想定内」を拡大していくことで想定外のことが発生する確率を低くして欲しい。

以上

【資料 I】 球磨川流域の浸水推定図

2020年7月4日15時頃



(国土交通省「令和2年7月豪雨に関する情報」より引用)

【資料 II】 1965年・2020年・平年(1981~2010年の平均)の人吉市の7月上旬日別降水量

7月	1965年の降水量	2020年の降水量	平年の降水量
1日	70.5mm	0mm	20.7mm
2日	108.8mm	0mm	20.6mm
3日	103.3mm	121.0mm	20.4mm
4日	47.7mm	299.0mm	20.0mm
5日	39.9mm	75.0mm	19.5mm
6日	94.3mm	110.5mm	19.0mm
7日	0mm	125.5mm	18.4mm
8日	1.7mm	33.0mm	17.7mm
9日	0mm	35.0mm	17.0mm
10日	0mm	25.0mm	16.4mm

(気象庁「過去の気象データ」より抜粋引用)

注1:昭和40年(1965年)7月洪水では7月3日に人吉の市街が浸水した。

注2:令和2年(2020年)7月豪雨では7月4日に人吉の市街が浸水した。

注3:氾濫要因と降水量の関係について

河川氾濫のメカニズムは複雑であるが、基本的には周辺部や上流部で短時間に集中して降る雨量が平年より著しく多い時に発生すると考えてよい。ここでは連続した2日間の総雨量に着目して欲しい。

想定外を想定内にしていくために

「令和2年7月豪雨」は課題文にある人吉市以外にも多くの地域に被害をもたらしました。人類は災害が起こる度に想定を立て直して以降の被害を最小限にするような努力を続けてきています。このような姿勢は私たち一人ひとりの身近な生活の中でも必要だと思います。これを機に過去の想定外の失敗を思い返し、どのような対策を立てれば防げるのかを考えてみては如何でしょうか。資料を参照しながら課題文を読んだ上で、以下の条件に従って作文を書いてください。

なお、いきなり作文用紙に書きだすのはお薦めしません。下書きを行った上で別の日に改めて読み直し、誤字脱字・助詞や主語述語の不整合を直した上で作文用紙に清書するようにしましょう。

また、(3)でテンプレートが示されていますが、必ずしもそれにこだわる必要はありません。(1)と(2)の条件を守れば自由に書いて構いません。

(1)指定作文用紙に800字以内で書くこと。タイトルは不要です。

(2)以下の順番で「想定外を想定内にしていくために」というテーマで書いてください。

- ①課題文を読んだ上で資料Ⅰを見たり、さらに自分自身で調べてみたりして、令和2年7月豪雨の原因に触れた上で、感じたことや考えたことを100～150字程度で書いてください。
- ②課題文では今年7月の球磨川氾濫は想定外の災害であったとしています。筆者がそう考えた根拠を資料Ⅱから1965年・2020年・平年それぞれの連続した2日間の総雨量を対比させながら「想定外」という言葉を用いて200～300字程度で書いてください。
- ③自分自身の身近な生活の中で、最近の、または過去の想定外と思われた経験を一つ選び、200～300字程度で紹介してください。
- ④③のできごとを踏まえて新たな想定に組み入れたことやこれから想定に組み入れようと思うこと、さらに、今後に向けた決意表明を100～150字程度で書いてください。

(3)書き方がよく分からないという生徒は以下のテンプレートを参考にしてください。

- ①「令和2年7月豪雨について～と思う。豪雨は～の発生が原因で、資料Ⅰからは～のようなことが読み取れる。最近の気象については～のように思う。また、被害に遭われた方々に～のようにしてあげたい or ～のようになって欲しい」(100～150字程度)
- ②「課題文では今年7月の球磨川氾濫は想定外の災害であったと書いてある。資料Ⅱを見ると今年の氾濫発生日とその前日の2日間の人吉市の総雨量は約○mmと平年の約○倍であり、大洪水のあった1965年7月と比較しても約○倍である。そういう点で筆者は想定外としているのだろう。私は or 私も～と思う。なぜなら～だからだ」(200～300字程度)
- ③「ところで、私にも想定外だった経験がある。～「いつ」「どこで」「何が」「どのように」を明確にする～。その結果、～になってしまい、自分自身は～のような思いをした。今、振り返ると～をしてあげればよかったと感じている」(200～300字程度)
- ④「それ以降、私は～のことを想定に入れて、～のような対応を取っている。今後も～に気を付けて生活をしていきたい」(100～150字程度)

以上